

1—S₁—3

ロコモコーディネーターの活動状況と課題

—記名式アンケートの結果から—

¹長野保健医療大学リハビリテーション学部, ²NPO 法人全国ストップ・ザ・ロコモ協議会アドバイザー, ³NPO 法人全国ストップ・ザ・ロコモ協議会理事長, ⁴藤野整形外科医院

○^{おおまち}大町 かおり^{1,2}, 藤野 圭司^{3,4}

本研究の目的は、NPO 法人全国ストップ・ザ・ロコモ協議会（以下、SLOC）がロコモコーディネーターに対して行った記名式アンケートから、現在の活動状況を把握し、今後の課題を把握することである。SLOC は、ロコモティブシンドロームの啓発および早期発見・早期治療の促進に関する事業、並びに、予防・治療に携わる各職種に従事する人々に対して、能力向上の支援に関する事業を行い、国民の健康および医療の増進に寄与することを目的としている。その活動のために、講座および資格試験を実施し、ロコモコーディネーターを養成している。

今回、資格を取得してから6か月が経過したロコモコーディネーター186名に対し、活動実績と負担感およびSLOCに対する要望などを記名式のアンケートにて聴取した。アンケートの回収率は52.1%（97名）であった。そのうち6か月間で何らかの活動をしていたのは32名であった。活動の内容（複数回答有）はロコモ普及員養成講座の実施が17名、ロコモ普及員活動の補助（サロン型）が14名、市民講座等の講師が11名であった。負担感については、時間的・労力的・経費的の3項目を聴取し、経費的には問題ないが、24名が時間的に、22名が労力的に負担を感じていると答えていた。また、その後の自由記載で、「ロコモ普及員が講座受講だけでは自立できず、サロンを開催するたびに補助として参加しなくてはならない」という回答が複数見られた。

これらのことから、今後は「ロコモコーディネーターの養成」のみでなく、ロコモコーディネーターが行う「ロコモ普及員の養成および管理運営の仕方」についても対策が必要であると思われた。NPOの活動を無理なく促進させるためには、ロコモコーディネーターの負担感を軽減しながら、ロコモ普及員が行うサロン型などでの活動を安全に実施できるよう、具体的で継続可能な運営方法の提示が急務であることが示唆された。